



## 「耳学問」

く」ことが少な  
くなった。先輩  
の技術を「盗む」  
とは、見るより  
も聞いて会得す  
ることだ。最近  
は縁をたよらず  
読（独）書で学  
ぶことが多くな  
ったためか、情

きはら」と読んでいたので、そ  
れが「やまとせつげん」（大和  
雪原）だとわかった。「眼力」  
を「めじから」と読んだり、  
興味津々という漢字を「きよ  
うみつ」と読む甚だしい誤  
読もあるという。一流放送局  
でも「耳学問」がなくなつて  
きたということだろうか。

報量の伝達が  
遅くなり、研修にも時間が  
かかるようになった。  
社会学者の加藤秀俊氏が、  
『子供以上に心配な大人の  
学力低下』と題して記事を  
書いておられた。アナウンサ  
ーの漢字の読みがややしく  
なった。「やしろでら」と聞い  
て、後でわかったことは「しゃ  
じ」（社寺）のことであった。

精神科医の仕事は「聞く」  
ことである。患者さんのいろ  
いろな訴えや悩みを傾聴す  
ることで多くを学び、人生  
を糧とさせていた。深い  
実存の苦しみ、不安、恐怖  
を「聞く」ことで、大きな「世  
界」の存在を知った。しかし  
沈黙の音を聞くには、まだ  
まだ勉強が必要であると思  
っている。

医学博士 西浦信博

（京阪病院院長）

私の修業時代は40年以  
上も前のことである。その  
当時の医局での教育は、全  
くの「耳学問」であった。先  
輩が喋っていることを聞いて、  
診断や治療を学ぶのが修  
行であった。経験談が長く  
なると、11、12時になる。眠  
くなるのをこらえながらし  
っかり勉強した。

最近この当たり前の「聞

南極点の地名を「やまとゆ